

## 1. 略歴

1989年3月	大阪大学文学部哲学科インド哲学専攻卒業
1991年3月	大阪大学大学院文学研究科哲学哲学史専攻博士前期課程修了
1996年3月	大阪大学大学院文学研究科哲学哲学史専攻博士後期課程単位取得退学
1996年9月	米国ハーヴァード大学大学院サンスクリット・インド学科留学
2002年6月	博士 (Ph.D.) 学位取得 (ハーヴァード大学)
2009年10月	京都大学人文科学研究所助教
2012年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

ヴェーダ学、インド学

### b 研究課題

古代インドの家庭儀礼と社会文化

### c 概要と自己評価

専門としている「ヴェーダ宗教儀礼からみる古代インドの社会と文化」というテーマについて、三つの方向から研究を進めた。第一に、ヴェーダ聖典学習者および学習を指すサンスクリット単語について、用例を文献の時代層にそって網羅的に分類・検討し、時代と文脈による用法の変遷を跡づけた。第二に、ヴェーダ学習者の入門儀礼の際に学習の第一歩として教えられる「サーヴィトリー」とよばれる詩節について、どの詩節がサーヴィトリーとよばれ、どのように神聖視されたか、そして、ポスト・ヴェーダ期の宗教文献にどのように影響を与えたかについて精査し解明した。第三に、新層に属するアーラニヤカの章の冒頭にしばしば付されているシャーンティとよばれる文言を手がかりに、ヴェーダ聖典が師から学生への教授によって学習をとおして伝承された形跡の一端に光をあてた。

### d 主要業績

#### (1) 論文

梶原三恵子、「ヴェーダ文献における brahmācārin- の語義 — 「学生」と「禁欲者」のあいだ」、『東洋文化研究所紀要』、175、61-103頁、2019.3

Kajihara, Mieko、「The Sacred Verse Sāvītī in the Vedic Religion and Beyond」、『Journal of Indological Studies』、30&31、1-36頁、2019.11

梶原三恵子、「アーラニヤカ文献の生成過程の一側面 — śānti マントラを手掛かりに」、『印度学仏教学研究』、68(1)、1-8頁、2019.12

#### (2) 学会発表

国内、梶原三恵子、「グリヒヤ祭にみる「伝統」と「慣習」、日本印度学仏教学会第69回学術大会、東洋大学、2018.9.2

国内、梶原三恵子、「アーラニヤカ文献の章構造とヴェーダ学習」、日本印度学仏教学会第70回学術大会、佛教大学、2019.9.8

国内、梶原三恵子、「アーラニヤカ文献の śānti マントラ — 「聖典」の形成過程を考える」、古代・中世インドの社会と宗教 — 「聖典」の諸相 (共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム：南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」第7回シンポジウム、京都大学、2020.2.23

#### (3) 会議主催 (チェア他)

国内、共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム：南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」第5回シンポジウム「古典インドの哲学と学問：始まりと展開」、共催、京都大学芝蘭会館別館、2018.10.7~2018.10.8

国内、共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム：南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」第6回シンポジウム「古代・中世インドの王権と宗教」、主催、東京大学、2019.3.23~2019.3.24

国内、共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム：南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」第7回シンポジウム「古代・中世インドの社会と宗教 — 「聖典」の諸相」、共催、京都大学芝蘭会館別館、2020.2.23

#### (4) 共同研究 (産学連携除く)

国内、京都文教大学、「ヴェーダとタントラの相互影響：南インド現地調査と文献調査に基づく総合的研究」、2019~

### 3. 主な社会活動

#### (1) 学会

- 国内、インド思想史学会、理事、2016.4～
- 国内、日本印度学仏教学会、理事、2017.9～
- 国内、日本南アジア学会、会員
- 国内、東方学会、会員
- 国際、American Oriental Society, Member

#### (2) 行政

- 日本学術会議 連携会員、2017.10～